



はこべら

学校教育目標：豊かな心を持ち、心身ともにたくましく、自ら学ぶ子どもの育成

響かせよう 響き合おう ～今に響け 未来に響け～

時津町立時津東小学校 学校だより 第 4 号

令和 5 年 7 月 2 0 日 文責：校長 村井 宏之

一学期が終わりました



今日で令和五年度の一学期が終わりました。一年生は七十一日間、二、三年生は七十三日間の登校でした。コロナの制限が緩和し、通常の学校生活が戻りつつあります。子供たちは、様々な学習や体験を通して、元気に、優しく成長しています。

一学期は、四年ぶりに全校で実施することができた運動会をはじめとして、様々な行事や活動がありました。これらを通して、六年生は「学校の顔」としての自覚を高め、自信を付けてきています。また、他の学年も、それぞれ学級の絆を深め、ひと回り成長できたように感じます。

東小では、「響かせよう 響き合おう」を合言葉に、あいさつ、返事に加え発表を頑張っています。この一学期の一番の成長は、「発表」です。一年生から六年生まで、積極的に手をあげて発表する子供が増えました。十分ではありませんが、確実に学校、学級の雰囲気が変わりつつあります。目指すは、「自分の思いや考えを堂々と発信できる東っ子」です。二学期も、発表が東小の文化となるよう指導していきます。

たくましい子供たち

教育の目的は、子供一人ひとりの自立にあると思います。また、自立とはよりよき社会の形成者としての義務や責任を全うしつつ、自らの夢の実現に向かって、豊かに生きていくことだと考えます。つまり、私たち大人には、子供一人ひとりに自立して生きていくための力を身に付けさせる役目があるということです。

そのためには、子供たちを鍛えなければなりません。では、「鍛える」とはどうすることなのか？たとえば、世の中には「したくなくても、しなければならぬことがある」ことや、「したくても、してはならないことがある」ことを正しく教え、最後までやり抜かせたり、しっかり我慢させたりすることが必要だと思います。

学校でもそれぞれの目標達成を目指し、励まし取り組ませています。夏休みには、家庭や地域を舞台に、よい意味で、子供たちを鍛え、たくましく育てていただければと思います。

読書の夏休みに

夏休みだからこそ、普段できないことに時間をかけて取り組みたいものです。海水浴やキャンプ、旅行など、特別な時間を過ごすことも大切ですが、普段の時間をどう過ごすかが、子供たちの成長に大きく関わります。朝から晩まで、テレビやゲームでは心も頭も育ちません。適度な外遊びと読書が大切です。子供たちの手元に本を置くために、図書館や本屋さんにいっしょに出かけられてはいいかがですか。

知っていますか？SNSの利用規定

本校でもSNSに関わって、気になる事案も発生しています。今の子供たちは、SNS等の楽しみ方や使い方はすぐに身に付けますが、利用に関するルールや個人情報に関する注意事項等については、ほとんど理解されていない状況です。子供任せにしていると「いじめ」などのトラブルや事件に巻き込まれることもあります。子供たちを守るのにはわれわれ大人の責任です。

「知っていますか？」左の表にあるように、ほとんどのSNSは小学生の利用は認めていません。小学生は、その発達段階にないということですので。子供たちを守るために、子供たちが使っている端末については、「使われているアプリの内容」や「どのように使っているか」を保護者の皆様でしっかり把握し、管理してください。お願いします。

SNS の利用可能年齢	
利用可能年齢	13 歳未満の利用
LINE	利用推奨年齢は 12 歳以上
TikTok	13 歳以上 アプリを使用できない
Twitter	13 歳以上 保護者の同意が必要
Instagram	13 歳以上 認めない
Facebook	13 歳以上 認めない (保護者の監督下でも不可)
YouTube	13 歳以上 原則認めない 保護者が許可すれば閲覧等の利用可 子供の行為すべてを保護者が責任を負う

※保護者がアカウントを管理することを条件に利用が可能となる場合がある。

特別支援教育だより

めばえ

～特別支援教育が特別ではなくなる日を目指して～

令和5年7月20日
時津町立時津東小学校
特別支援教育コーディネーター
文責 若杉 聡
第3号



ケータイ・TVが親代わり？

= 共感脳の発達 =



今やほとんどの人が持つ携帯電話。たくさんのアプリを取り込んで多くの機能を持たせることができるスマートフォン（以下、スマホ）の普及率は年々上昇し、総務省が2019年に行った調査では、6～12歳では49.8%、13～15歳では75.2%がスマホを持っていることが分かりました。そんなスマホですが、便利さの裏に潜む怖い部分をご紹介します。

【スマホが手放せない】

スマホは、ガラケーと呼ばれる昔の携帯電話と違い、電話とメール以外にたくさんの利用方法が付加されています。いくらでも取り込めるゲーム、電子書籍（コミック）、動画など、**魅力がいっぱい**です。しかし、自宅で無制限に使用させると、その魅力に取りつかれたように依存していきます。ゲームに飽きたら動画、動画に飽きたらライン、ラインに飽きたら電子書籍…次から次へと移っていきます。周囲から見たら、**まるで心を奪われたように**……。

【スマホでゲーム→脳の血流不足？】

人の心が読めず、他者とうまくコミュニケーションができない人は、**前頭前野の血流が少ない**といわれています。（また、相手に共感したり、我慢したりするのも、実は**前頭前野の中の真ん中「内側前頭前野」の働き**であることが分かっています）運動不足も脳の血流を悪くしますが、実は単純なことを繰り返すゲーム（選択肢が少なく、あまり考えなくて進むゲームや敵をひたすら倒し続けるゲーム等）も血流を悪くします。**このようなゲームを長時間し続ける人は非常に危険です。**

【スマホで動画→相手の反応を見て判断が難しくなる？】

「言葉ではないものから**相手の心を読み取る**」には、人と人との顔を突き合わせて関わる中で育まれていくものです。人のまねをし、人と自分の違いが分かり、人を理解していくものです。しかし、テレビやスマホなどの一方的に流れる動画サイトをじっと見つめ、画像にコミュニケーションを求めても何一つ返ってはきません。ままごとやごっこ遊びと、テレビに出てくる登場人物のまねでは、この点が違ってきます。

家族でいっしょに夕食を囲んでいますか？ 家族でたくさんの会話がありますか？

携帯電話などの機器が発達してきている今だからこそ、機器を使う“人”の魅力（表情・言葉遣い・やさしさ・思いやり・心遣いなど…）が求められています。もうすぐ子どもたちは夏休みです。大人は余計に忙しくなりますが、私たち大人が、子どもの気持ちに耳を傾け、顔を突き合わせて話すことが大切です。

